保健産業事報

発行所
株式会社保健産業事報社
〒171-0022
東京都豊島区南池袋3-14-5
TEL(03)3988-1899
FAX(03)3988-3484
E-mail
hsjs@y6.dion.ne.jp
購読料1ヶ年郵共6000円

富士フイルム

# 再生医療VBに出資

## 免疫細胞事業の研究開発を加速

富士フイルム（社長＝助野健児氏、東京都港区）は、再生医療ベンチャーのレグセル（社長＝松田直人氏、京都市上京区）の第三者割当増資を引き受け、同社に1億7000万円を出資した。また、両社は再生医療製品の開発支援を行う業務提携契約を締結した。

レグセル社は自家制御性T細胞や他家iPS細胞由来キラーT細胞を用いた免疫細胞治療の画期的な技術を開発し、実用化をめざす再生医療ベンチャー企業。

免疫学研究者の坂口志文大阪大学名誉教授と京都大学ウイルス・再生医科学研究所の河本宏教授から、高品質なT細胞を増殖・作製する技術を導入し、数年内に再生医療製品の臨床開発の実施を計画している。

富士フイルムは今回の資本・業務提携を通じて、免疫細胞治療の最先端技術を構築、応用を図り、自社再生医療製品の研究開発を加速させる。

さらに、グループ企業のジャパン・ティッシュ・エンジニアリング（J―TEC）を通じて、レグセル社から細胞培養プロセスの開発や薬業コンサルティングなどを受託する予定だ。

現在、T細胞を使った免疫細胞治療は副作用が少なく高い効果が期待できることから、研究開発が活発化している。特に制御性T細胞を使った治療は、リウマチなどの自己免疫疾患や、生体移植時の免疫拒絶に対する新たな解決策と期待されている。

また、キラーT細胞を使った治療は、がんへの高い治療効果が見込まれ、他家iPS細胞を使うことで、優れた利便性が期待されている。

# 手軽に乳がんをセルフチェック

華　琳

## 『スクリーニング機器』を発売

スクリーニング機器「ブレストライト」

華琳（社長＝石塚琳氏、東京都墨田区、☎03―6666―9179）は、女性が手軽に乳がんのセルフチェックができるスクリーニング機器「ブレストライト」（英国PWB社製）を発売した。

ブレストライトは特定の波長の赤い光を胸に照射することで、乳房内部を可視化し、変化をチェックする。女性が片手で持って、手軽に使用できる。

使用方法は、鏡のある部屋で照明を完全に消し、ブレストライトを胸に密着させて光を照射すると、光が当たった部分が赤く半透明に映り、正常な静脈や血管は暗い線のように映る。

しかし、①胸に暗い部分が見える②胸に影のようなものが見える③血管の一部が周りに比べて暗く太く映る―などの変化がある場合は乳房の異常が原因である恐れがあり、医療機関を受診する必要がある。

PWB社の実験でブレストライトは、触診のセルフチェックでは検知が難しいとされる20ミリメートルの異常を80％以上検知した。

ブレストライトの光はすべて可視光で、乳房組織や肌への悪影響、副作用はない。また、この光は乳腺を透過するので、マンモグラフィーによる検査では異常が発見しにくい高濃度乳腺の女性も、検知効果に悪影響がなく使用できる。

乳がんは日本で女性の罹患者数第1位のがんで、35歳以上で罹患者数が急増し、40代後半から50代でピークを迎える。乳がん患者の生存率は他のがんに比べ高いが、ステージⅠで99・9％、ステージⅢで79・5％、ステージⅣでは32・6％と生存率は下がるので、日々のセルフチェックの重要性が増している。

量研と東芝

# 重粒子線治療装置を小型化へ

## スキャニング機器を3分の2に縮小

量子科学技術研究開発機構（量研）と東芝は、重粒子線がん治療装置向け、スキャニング照射機器の大幅な小型化を実現した。従来機器では9メートルを必要とした機器から照射位置までの距離を3・5メートルまで短縮。この機器を回転ガントリーに適用することで、重粒子線用回転ガントリーを従来の約3分の2まで小型化できる。

重粒子線がん治療装置は炭素イオンからなる粒子ビームを加速し、治療室内のスキャニング照射機器から患部を照射する。従来機器では2台のスキャニング電磁石を用いて、ビームを直交する2方向に走査し患部を塗りつぶすように照射する。

従来機器では電磁石の干渉などに問題があり、2台のスキャニング

コニカミノルタ

# パナメ社と株式

## 医療IT事業を

コニカミノルタ（社長＝山名昌衛氏、東ナソニックヘルスケア（社長＝小谷秀仁氏社子会社のパナソニックメディカルソリュ市、PHCMS）の株式取得に関する株式

PHCMSはパナソニックヘルスケアの100％子会社で、CTやMRI、X線画像などの医療用画像データを、保管、管理するシステムであるPACSメーカーとして、医療機関向けソリューション事業を国内で展開し

# 『ME技術実力検定試験』

日本生体医工学会

## 9月3日に全国7会場で実施

日本生体医工学会（理事長＝杉町勝氏）は「第39回第2種ME技術実力検定試験」を実施する。

対象は医師や看護師、臨床工学技士、臨床検査技師などの医療従事者、医療関連企業の開発・製造・販売・修理などの担当者、大学・専門学校の学生で、合格者には合格証明書が交付され、『第2種ME技術者』の呼称が使用できる。

検定試験の実施要領は次の通り。

◇

▽日時＝9月3日(日)9：50～16：30

▽会場＝札幌会場（札幌医学技術福祉歯科専門学校）、仙台会場（東北工業大学八木山キャンパス）、東京会場（東京電機大学千住キャンパス）、名古屋会場（名城大学名古屋ドーム前キャンパス）、大阪会場（コングレコンベンションセンター）、岡山会場（川崎医療福祉大学）、福岡会場（代々木ゼミナール福岡校）

▽受験料＝1万2000円

▽試験方法＝五者択一式試験と小論文試験

▽試験範囲＝①医学の基礎②理工学の基礎